

大妻女子大学所蔵,
狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目: 平成三年一月現在

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 1991-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石川, 了(編) メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/1502

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



大妻女子
大学所蔵

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

—平成三年一月現在—

石川了編

凡例

の順とした。

一、使用記号・略称の意味は次の（ ）内の通りである。

〔 〕（仮書名又は推定事項）、外（外題）、内（内題）、尾（尾題）、序（序題）、目（目録題）、見（見返し題）、扉（扉題）、書外（書外題）、刊（刊本）、写（写本）、浜（浜田義一郎文庫）、吉（吉田精一文庫）

一、特に刊本の外題については、「書外」「書外題」と特記されていない限り、「外」「外題」とあれば原題簽又は刷付け表紙からの書名である。

以上

一、掲載点数は二百七十余点で、うち浜田義一郎文庫百点余、吉田精一文庫二点である。

一、明らかに狂歌・狂文に該当しない書（漢詩文・黄表紙・随筆等）が十余点含まれているが、著名な狂歌師の作、又は関係作であるので、あえて加えた。

一、複製本及び狂詩関係のものは、これを全て省いた。

一、掲載は冊子本（卷子本・一枚刷りを含む）・軸物・未表装物

卜養狂歌（外）

〔寛文頃写〕

写（卜養自筆）

半井卜養詠

箱書「本草狂歌絵半井卜養自筆」。

狂歌十六首及び彩色画十四図を収む。識語「右画并狂歌半井卜養所製也／宝曆九年仲秋／珠淵岡氏

印印」。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

雅庭醉狂集附録(内) 享保十六年 刊 風水軒白玉著

半紙本 一冊 浜・911.19 O25

「附録」の二字は外題「附録之巻」と小書き。刊記「享保十六辛亥年初夏廿四日成／浪華書林／河内屋宇兵衛／蔵版／池田屋三郎右衛門」。

〔家〕と 〔享保十六年以後〕 刊 油烟斎貞柳詠

半紙本 二冊合一冊 浜・911.19 Y96

「統家つと」と合綴。正編以下の通り。「享保十四己酉歲蘭月朔 万笈堂桑魚」跋。刊記前に「撰者 大坂雛屋町 堺屋四郎兵衛」。刊記「享保十四年酉七月／浪花書林／(住所略)／桑名屋甚兵衛／(住所略)／菅田屋久兵衛」。床の間の口絵あり。本文入り。続編以下の通り。自序、可親軒跋。巻頭に二聖六歌仙の詠を絵入りで付す。

狂哥机の塵(外) 享保二十年 刊 永田貞竹撰

半紙本 一冊 浜・911.19 Ky441

貞柳一周忌追善集。外題詳しくは「由縁斎」を冠す。自序、可勇舎素能跋。本文前に貞柳の賛(絵入り)を付す。刊記「大坂書林(住所略) 田原屋平兵衛／享保廿年卯七月」。「狂歌誹書目録」半丁を付す。

狂調真寸鏡(内) 享保二十一年 刊 栗柯亭木端詠・編

半紙本 一冊 浜・911.19 R41

外題「狂歌誹ますかゝみ」。「享保乙卯の年晩冬の日」序。刊記「享保二十一年辰正月／(大坂・住所略) 書林 安井嘉兵衛」。大坂・柏原屋佐兵衛梓行狂歌本八部を広告。

後撰夷曲集拔書(外・内) 寛延三年 刊 百子堂編

半紙本 一冊 浜・911.19 G69

「寛延三年夏五月 浪速百子堂」自序。刊記「寛延三年午六月／(住所略)／浪花書林 田原屋平兵衛」。

狂歌訓(内) 明和三年 刊 栗柯亭木端編

半紙本 一冊 911.19 Ky47

貞柳三十三回忌追薦の書。「明和三丙戌年むつきもちの日 岫雲亭花産」序、「明和三丙戌孟夏 門人栗園」跋。刊記「明和三年

丙戌仲秋／(印文)「毎部押此印章／無之者非真本」 栗柯亭蔵板／書林／(京・住所略) 斎藤庄兵衛／(大坂・住所略) 赤松九兵衛」。三部の書を近刊予告。

大田南畝子息偃遊娛詩卷(外) (明和四一七成) 写(軒樞自筆)

松崎惟時等詠

半紙本 一冊 浜・919.5 So32

転写本。識語「本書もと藤井紫影博士手沢本之一にして余一日先生の偃息の側に侍座して／談偶南畝子に及び則ち先生書架より之を抽いて余に賜へり浜田君に贈るに当り些々その来由を記す／昭和二十九年甲戌四月／野間光辰」。沼田藩藩校旧蔵。

夢庵戯歌集(内) 明和五年 刊 孤立道人我詠

半紙本 二卷合一冊 浜・911.19 D16

「明和三年正月元旦 金竜雄杜多」序、「明和二年の冬の末なる月みつる日京華の東山栗林の夢の庵にてかくむさしの草端房積大我」自序、「明和三の春の初の月みつる日むさし野の草端房積大我京華の東山の辺なる夢の庵にてかく」自跋、「明和四年秋 東都風人源輝」跋。刊記「明和五戊子年正月／皇都書肆／赤井長兵衛／沢田吉左衛門」。林若樹旧蔵。

狂歌氣の薬(内) 明和七年 刊 美濃 三休齋白掬撰・尾陽 秋園齋米都閱

半紙本 一冊 911.19 Ky44

「明和七年季春 淡海師大伴資芳」序、「明和七つの年かのえとらの桃の日 秋園齋米都」跋。口絵四図(信海自画自贊の写し、貞柳・ト養・信海門人尾陽秋棠の座像や詠)。刊記「明和七年庚寅卯華月／(広告)／皇都書林(住所略)岡吉兵衛拾遺」を近刊予告。

同(内) 同年 刊 同撰・同閱

半紙本 一冊 浜・911.19 Ky44 B

狂歌酒百首(外) 明和八年 刊 暁月房詠・一本亭芙蓉花校

半紙本 一冊 浜・911.19 G992

内題「狂歌酔吟藁百首」。「宝曆八年戊寅初春日(略)浪花 一本亭芙蓉花」序。扉絵あり。刊記「官許 宝曆八年戊寅三月／発行情 明和八年辛卯三月／書林／(江戸・住所略) 西村源六／(大坂・住所略) 柏原屋佐兵衛」。柏原屋板行書目二丁を付す。

延慶三年かといぬのとしのこよみ(帙) 安永二・四、天明元年写(大田南畝自筆) 折本 一帖 449.81 E61

曆三枚。安永四年・同二年十二月十三日・天明元年仲夏念六の各自筆識語あり。南畝旧蔵。

吾吟我集(外・内) 安永五年 刊 石田未得詠 大本 十卷二冊 浜・911.19 I72 1~2

「宝曆七年丁丑冬日 緑竹園主人」序。刊記「安永五丙申年八月從東都求板／浪花 柏原屋佐兵衛」。柏原屋板行書月二丁半を付す。

狂歌今はむかし(外) 安永五年 刊 土屋自休集 半紙本 一冊 浜・911.19 Ky443

貞柳五十回忌追善集。「安永丙申夏四月 曾習堂 真利」序。貞柳座像(栗洞写)と栗村亭・栗洞の養を付す。絵入り。刊記「安永五年申八月十五日／浪花書林／(大坂・住所略) 誉田屋伊右衛門／(同上) 寺田権兵衛」。

[同] 同年 刊 同集 半紙本 一冊 911.34 Y96

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

今日歌集(内) 安永五年 刊 木室卯雲詠・藍明編

大本 一冊 浜・911.19 K139

白鯉館卯雲家集。「安永五年申正月 藍明」序、筆法陳堂親音跋。刊記「安永五丙申仲秋(江戸・住所略) 須原屋市兵衛」。林若樹旧蔵。

狂歌五題集上巻(尾)

安永九年序 刊 芙蓉花撰

半紙本 一冊 浜・911.19 Ky439 1

「安永九庚子正月 浪華 一本亭芙蓉花」自序、「一貫堂呉山一瓢亭花交と共に(略)安永九年庚子仲秋日」序。巻頭に撰者の自画賛を付す。絵入り(可都良・法橋周峰・宗信画)。永昌堂(大坂・柏原屋佐兵衛)板行書目二丁を付す。

興歌めさし艸(内)

天明二年 刊 丹青洞恭巴編

半紙本 一冊 911.19 Ky418

外題「興めさし艸」。「あめあきらかななるふたつむつまし月に序 丹青洞恭園」自序。絵入り(自画)。巻頭に貞徳座像を付す。刊記「天明 戊寅孟春/彫工(江戸・住所略) 上村仙斧/書林(同上) 泉屋市兵衛」。二部の書を近刊予告。

壬寅詩叢(外)

天明二年成 写 大田南畝等詠

半紙本 一冊 浜・919.5 J52

転写本。同年正月から五月頃までの詩会における詠集。誠語「昭和卅六年六月十五日大田南畝詩幅と共に購入/壬寅は天明二年、岡田寒泉を中心とする詩会/にして、朝比奈昌始 中神蓋峰 同守節なども加/はれり/浜田義一郎識」。

めでた百首夷歌(内)

天明三年序 刊 四方赤良詠

小本(縦長) 一冊 浜・911.19 O81-7

「天明三のとし三ツの朝うらゝかななる 四方赤良」自序、あけら普江跋。口絵蘭香画。刊記「江戸・住所略) 今福屋勇助」。広告「仙術はりの虎の巻 出来」。

同(序)

刊 同詠

中本 一冊 浜・911.19 O81-8

外題「めでた百首」。序跋は序の「天明三のとし」を削る他は前掲本に同じ。本文全丁絵入り(静斎英一画)。後表紙見返しは葉の永福丸広告。

狂歌知足振(内)

「天明三年序」 刊 普栗釣方編

小本 一冊 浜・911.19 Ky435-2

酒上不埒序、「卯のとし卯月のはしめ まんく堂普栗釣方」自序。刊記「まんく堂」。四部の書を広告。朱筆による姓名・住所等の書入れ多し。三村竹清旧蔵。

同(書外) 〔同序〕 写(三村竹清筆) 同編

小本 一冊 911.19 Ky435

上部余白に竹清の補筆標記多し。竹清識語「此書当時の狂哥作者を知るによきものなれと可惜其ノ本名を記さず今予か知り得る限ものを標記す記ノ了つき東作橋洲卯雲などの大家を何として洩らせしかを疑ふ」。

狂哥はまのきささ(目) 天明三年序 刊 元木網著・四方赤良編 豆本 一冊 浜・911.19 Mo88

見返し題「狂歌浜のきささ」。天明三のとし春の日 四方赤良」序、「あめあきらけきみつのとしむつみ月 もとのもく網」自跋。麟鳳堂板。明治刷り。

狂歌若葉集(内) 天明三年 刊 唐衣橋洲撰 大本 二卷二冊 浜・911.19 Ky438 1~2

外題「ヤブレ」若葉集(ヤブレ)。「壬寅のとしはしめの夏 から衣橋洲」自序、置来序。刊記「天明三年癸卯正月穀旦ノ(京・住所略) 武村嘉兵衛ノ(大坂・住所略) 敦賀屋九兵衛ノ(江戸・住所略) 前川六左衛門ノ(同上) 近江屋本十郎板」。続編を近刊予告。林若樹旧蔵。

同(内) 同年 同撰 同撰 半紙本 二卷二冊 浜・911.19 Ky438 1B~2B

外題「狂若葉集」。半紙本である他は前掲本に同じ。

万載狂歌集(外・内) 天明三年 刊 四方赤良・朱楽菅江撰 半紙本 十七卷二冊 911.19 Ma48 1~2

「あめあきらかなる宝引のなほもひとふたみつのとしはるのはしめのうらゝかなる 四方赤良」自序、「天明みつのとしはるの日のながく」と多らひ終れるになんありける 朱楽菅江」自序、「天明三年歳次癸卯 四方山人等」跋、「橋のやちまた」跋。二冊目は卷十より始まる。刊記「天明三癸卯歳孟春吉日ノ(京・住所略) 須原屋仕入店ノ(大坂・住所略) 柏原屋与左衛門ノ(江戸・住所略) 須原屋伊八板」。「徳和歌後万載集」を「近刻」、「狂歌選」を説明文付きで「嗣出」と広告。

同(内) 同年 同撰 同撰 半紙本 十七卷合一冊 浜・911.19 Ma48 B

合綴のずれからして二冊目は卷十より。前掲本に比し、刊記部分は与左衛門の住所が変わり、新たに「(大坂・住所略) 柏原屋佐兵衛」が加わる以外同じ。広告では「徳和歌後万載集」を「出来」、「狂歌拾遺」の説明文を削る。

同(外・内) 同年 刊 同撰 半紙本 十七卷二冊 浜・911.19 Ma48 1C~C2

二冊目は卷十一より。前掲合綴本に比し、二つの跋文順序が逆、新たに伊八蔵板目録六丁を付す以外同じ。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

狂文宝合記(外・内) 天明三年 刊 木網・東作・為輜校合 半紙本 三卷三冊 917 Ky 1 1～3

上品上・同下・客品の三卷。扉に「天明癸卯歳夏四月二十五日江都／兩國柳橋於河内屋半次郎亭興行」とあり、智恵の内子序、「癸卯初夏 平秩東作」凡例、四方山人跋。絵入り(北尾政演・同政美画)。刊記「天明三癸卯歳文月／東武書林／住所略」山本甚兵衛／(同上) 伊沢八郎兵衛／(同上) 上総屋利兵衛。三部の書を近刊予告。

猿蟹遠昔断(書外) 〔天明三年〕 刊 恋川春町作・画 中本 二卷合一冊 浜・913.57 Kō31-2

黄表紙。葛屋重三郎刊。鱗形屋板の春町黄表紙「悪抜正直曾我」の下巻絵題簽あり。

狂哥月の影(外) 天明四年 刊 二世二松庵百々万英詠 半紙本 一冊 911.19 N87

題簽には書名下に「二松庵万英詠草」と刻す。自序、三世二松庵清染跋。絵入り(長谷川魯習画)。巻頭に初世二松庵「晴平翁下津間渡江源頼孝」の座像と辞世を付す。刊記「養老館藏板圖／天明四年甲辰秋八月／書肆(京・住所略) 大西新兵衛」。広告「狂哥松のさかへ 二松庵万英門人詠 近刻」。

後撰夷曲集(外・内) 天明四年跋 刊 生白堂行風撰 半紙本 十卷二冊 浜・911.19 G692 1～2

〔天明甲辰十一月〕(編者)跋。

狂言鶯蛙集(内) 天明五年 刊 朱楽菅江撰 半紙本 二十卷合一冊 浜・911.19 Ky 3 B

外題「故混(ヤブレ)集(ヤブレ)」。自序、「天明四年歳次甲辰極月幾望因丸乃字之仮名綴真名振之後序云尔 四方山人」跋(返り点・送り仮名略)。武士八十氏・白川与布称・便々館湖鯉鮒校合。刊記「天明五年乙巳正月吉日／京都書林(住所略) 武村嘉兵衛／大坂書林(同上) 敦賀屋丸兵衛／江戸書林(同上) 前川六左衛門／(同上) 葛屋重三郎板」。

同(内) 刊 同撰 半紙本 二十卷合一冊 911.19 Ky 3

外題「古今馬鹿集(ヤブレ)」。前掲本の無刊記本。

徳和歌後万載集(外・内) 天明五年 刊 四方赤良撰 半紙本 十五卷二冊 浜・911.19 Tō45 1～2

和文の序、「あめあきらけきよつのとしむつき 山手白人」序、「天明四年うつきのはしめ あげら漢江」序。刊記「天明五年乙巳孟春吉日／(広告)／(京・住所略) 須原屋仕入店／(大坂・住所略) 柏原屋与左衛門／(同上) 柏原屋佐兵衛／(江戸・住所略) 須

原屋伊八板」。伊八蔵板目録八丁を付す。

狂文棒哥撰(序) 天明五年 刊 泥田房・鳴滝音人編

半紙本 一冊 浜・917 Ky12

「四方赤良朱棗漢江つゝゐぞない二日酔中にかいふ 天明五巳のはつはる」合序、「天明五乙巳の芳春 塵塚山莊泥田房」自序、鳴滝音人自跋。絵入り(春川吉重画)。刊記「天明五乙巳年正月月上旬(江戸・住所略)書林 須原屋茂兵衛/梓行」。二部の書を近刊予告。

狂歌俳優風(目) 天明五年跋 刊 橘洲・菅江・赤良判

横本 三卷三冊 浜・911.19 W49 1~3

外題「俳優風」、内題「狂歌評判俳優風」。四方山人自跋、「天明五年八月七日萬唐丸/亭にて朱棗菅江唐衣橘洲/四方赤良立合之上位附/定之同八日より十二日迄/五日の内に細評稿を脱し早」(赤良)自跋。口上で普栗釣方・大飯食人の死去を述ぶ。口絵・挿絵つむり光画。開口部分末に「天明五年辰之春 作者 自作」とあり。刊記「書林(江戸・住所略)萬屋重三郎/蔵版」。三部の狂歌本を広告。

夷曲百鬼夜狂(内) 天明五年序 刊 平秩東作編

中本 一冊 浜・911.19 H53 B

「天明五のとし冬の日 四方山人」序、唐衣橘洲跋。刊記「書林 江戸通油町 萬屋重三郎」。

同(内) 同序 刊 同編

中本 一冊 911.19 H53

前掲本の刊記のかわりに、「耕書堂(萬屋)蔵板目録」(十二作分)を付す。

同(内) 文政三年跋 刊 同編

中本 一冊 911.19 Ky45

外題「狂歌百鬼夜狂」。前掲本の再版本。蜀山序、「文政二年四月 六樹園飯盛」序、「天明五のとし冬の日 四方山人」序、唐衣橘洲跋、狂歌堂跋、「文政三年皐月 耕書堂主人二代目萬から曆」跋。刊記「小伝馬町三丁目/萬屋重三郎梓」。

同(内) 同跋 刊 同編

中本 一冊 吉・911.19 Ky45 B

三十六人狂歌撰(外) 「天明五年頃」 四方赤良撰

大本 一冊 浜・911.19 Na642

自序。毎丁人物画入り。南畝私家版。南畝・二代目市川左団次旧蔵。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

狂歌太郎冠者(内)

天明六年序

刊 風齋一風子撰

半紙本 一冊

911.19 Ky432

「天明六丙午年正月 鈍工齋時楽」序、「天明六丙午年正月 夷曲庵貞風」跋。絵入り(歌川豊国・親・慈悲成・彩之・丹青洞画)。
刊記「書林 東都芝神明前 和泉屋市兵衛」。三部の狂歌本を広告。齋藤昌三旧蔵。

絵本八十字治川(序)

天明六年

刊 北尾紅翠齋画

半紙本 三卷合一冊

721.8 Ki71

狂歌絵本。四方山人序。刊記「天明六載丙午正月吉辰」(江戸・住所略)／書林／葛屋重三郎蔵板」。

吾妻曲狂歌文庫(外)

天明六年

刊 飯盛撰・政演画

大本 一冊

911.19 A99

彩色刷り肖像集。外題角書「天明新鵠／五十人一首」。自序。関治右衛門の刻。刊記「天明六載丙午春正月／書林(江戸・住所略) 耕書堂 葛屋重三郎寿桜」。続編を近刊予告。

狂歌才蔵集(外)

天明七年奥

刊 四方赤良撰

半紙本 十六卷二冊

浜・911.19 Ky440 1~2

内題「才和歌集」。自序。奥に「天明七のとし初春」。葛屋重三郎蔵板書目一丁半を付す。

〔古今狂歌袋〕

天明七年

刊

飯盛撰・政演画

浜・911.19 Ko442

彩色刷り肖像集。四方山人序、平秩東作跋。口絵に朱棗菅江・万象亭・四方赤良・手柄岡持・唐衣橋洲の戯文を付す。刊記「書肆(江戸・住所略) 葛屋重三郎梓」。十部の書を広告。林忠正旧蔵。

四方のあか(外)

〔天明七年以後〕

刊 赤良作・飯盛編

半紙本 二卷二冊

浜・917 081 1B~2B

内題「よものあか」。宿屋飯盛序。後表紙見返しに葛屋重三郎蔵板目録を付す。後印本。

同(内)

〔同〕

刊 同作・同編

半紙本 二卷二冊

917 081 1~2

刊記と蔵板目録以外は前掲本に同じ。刊記「書林(京・住所略) 西村平八(大坂・住所略) 柏原屋清右衛門(尾州・住所略) 風月堂孫助(江戸・住所略) 西村源六(同上) 葛屋重三郎板」。葛屋の蔵板目録二丁を付す。

伊豆日記(外)

天明八年序

写(鳴螺自筆稿本)

荻原鳴螺作

半紙本 一冊

918.5 Ka66

狂歌入り紀行日記。「天明八戊申のとし卯月なかは大江戸小石川の庵に」白川よふね序。「荻原鳴螺改山垣鈴也」附言、「天明らけき八のとしさ月末の五五大江戸よりも里隔し下つけの国浅川の辺中目ち□□山の禁庸々舎の主荻原なりほら」自跋。後に、当該

日記についての朱楽菅江の評と、鳴螺の「雑詠集」(菅江の批点と評あり)を付す。

流観百図(外)

「天明—文化成」

写

大田南畝集

卷子本 三卷 210.088 R98 1~3

箱書「蜀山漫筆若樹題三」。古器物等の写しや拓本集。南畝自筆を含み、一部彩色。第一卷二十一図、第二卷七図、第三卷九図を収む。大正三年九月に三村竹清が現状に表装したもの。第三卷に竹清の筆で「右流観百図世存目録而其図即散佚不全如是卷/其存多者也曾求之文行堂裏在二十五年前当/時世人未顧如此者故小僮尚得求之自今視古猶後/視今乎既裝成今函成併記来由十月又記」。

〔手柄岡持自筆草稿〕

寛政元年

写(岡持自筆)

手柄岡持作

卷子本 一卷 浜・914.5 H912

本文末に「寛政元年己酉季の秋 手柄岡持 大田南畝自筆奥書「右手柄岡持手筆草稿也/化子閨月 蜀山人。笹川臨風旧藏。」

南畝叢書前集(外)

寛政元年

刊 大田南畝編

半紙本 三編四冊 浜・081.5 N48 1~4

箕州・榊原玄輔著「榊巷談苑」(大田覃序・跋)一冊、撰人名欠「藤樹先生年譜」(覃序)一冊、東海・平維章著「東海談」(覃序)二卷二冊から成る。刊記「寛政元年己酉冬十二月/東都書肆(住所略)小西堂遠州屋清右衛門梓」。

狂歌初心抄(内)

寛政二年序

刊 唐衣橋洲編

中本 一冊 浜・911.19 Ka62

「寛政二のとし二月 唐衣橋洲」自序、酒月の米人跋。刊記「(江戸・住所略)葛屋重三郎板」。葛屋蔵板目錄一丁を付す。

雄長老寿話(外)

寛政二年

刊 紀定九作・うた磨画

中本 三卷合一冊 913.57 Ki45

黄表紙。中巻の絵題簽あり。「八十斗の老翁酒の上にてしるす」序。葛屋重三郎刊。

狂歌部領使(序)

寛政三年序

刊 橋洲・飯盛・真顔・定丸撰

半紙本 一冊 911.19 Ky48

外題「狂歌ことり使」。「寛政三亥のとし初春 つふり光」序。「葛屋重三郎板」蔵板目錄一丁を付す。

狂歌大躰心得(内)

寛政三年成

写 朱楽菅江作

縦長本 一冊 浜・911.19 A33

菅江自筆本の再転写本。奥に「寛政三辛亥年春三月/芬陀利花庵菅江/待合久志阿兄/足下」とあり、その上部余白に「奥書/右之秘書一卷は朱楽/先生より何某のかり/贈られしをおのれ/ひそかに写しとりて/ひめ置しがたひ/美浜のぬしに此道の判/者といへる事をゆるし/まいらするしにとて/かくはうつさしめ早ぬ/狂哥所御座衆/芝酒屋/文化十五寅正月 山陽堂(堂の一字朱筆)/芝酒屋主人/几下」とあり。「鼓桜前雲陽館」と刻された野紙使用。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

興歌野中の水(内) 寛政三年序 刊 九如館鈍永撰

半紙本 一冊 浜・911.19 Ky448

外題「興野中の水」。「寛政亥のとし月見る頃 山田繁雅」序、「洛西野子 疎慵」跋。巻頭に若中画く富士山図に撰者賛あり。挿

絵二図(天民・若中画)。

狂仁世物語(序) 寛政四年序 刊 感和亭鬼武撰

半紙本 一冊 浜・911.19 N79

書外題・跋題「仁世物語」。「寛政みつのへ子のはる日 曼鬼武」自序、「寛政千子春正月 阿田口麿」跋。林若樹・淡島寒月旧蔵。

同(外・序) 同序 刊 同撰

半紙本(やや大型) 一冊 浜・911.19 N79 a

前掲本に比し、新たに「野山の草木も笑ふ頃 曼鬼武門人みちのおく桑折の駅 早根朝興」とある跋文が加わる。

狂歌泰平楽(外・内) 寛政四年 刊 玉雲齋貞右詠

半紙本 一冊 911.19 Ky46

序題「太平楽」。「寛政辛亥中秋 九鬼隆正」序、「ゆるやかなるまつりことみつ刻てふとしすへの秋 市中庵武藤時丸」序、「寛政四年壬子二月吉日／彫工 浪花 山本伝兵衛／書林(大坂・住所略) 尼屋貞次郎」。六部の書を広告。

狂歌上段集上(外) 寛政五年序 刊 桑楊庵光撰

半紙本 一冊 浜・911.19 Ky442 1

「寛政いつとせといふとしむつき 桑楊庵」自序。

太郎殿犬百首前編(内) 寛政五年序 刊 桑楊庵光撰

半紙本 一冊 浜・911.19 Ta91 1

外題「歌太郎殿犬百首前編」。「寛政五丑のとし 桑楊庵主人」自序。

新古今狂歌集(外・内) 寛政六年序 刊 元木網撰

半紙本 二十卷二冊 浜・911.19 Sh642 1～2

「寛政六年水無月廿五日 もとのもくあみ」自序。「ときはゆたかななる御まつりことむつのとし水無月はたちあまひ五なむ 栗本 敬阿」跋。葛屋重三郎蔵板目錄一丁半を付す。林若樹旧蔵。

〔手柄岡持自筆上京日記〕 寛政六年 写(岡持自筆稿本) 手柄岡持著

中本 一冊 浜・915.5 H91

表紙に「手柄岡持自筆／寛政六年京都へ／御便ニ登りし日記」と墨書。自序。勝海舟旧蔵。

狂歌江戸紫再編(外)

〔寛政七年〕

刊

四方歌垣・花江戸住・万亀亭撰

半紙本 一冊

911.19 Ky436

口絵紅翠画。刊記「(江戸・住所略) 星運堂 花屋久次郎」。

〔寿詞石陽尼〕 寛政八年序 刊 田中如倫編

大本 一冊 918.5 Y73

編者の還曆賀集。「寛政の八とせと云季のきさらぎのふつ」かの日 柴田常昭「序、寛政丙辰仲春 名倉昌言團」跋。漢詩文・和歌(宣長等)・狂歌(菅江・橘洲・萬から丸・卯雲・太田單等)・発句の各部から成る。薄墨刷りの亀の口絵(正四位上度会正令画)あり。刊記「皇都書林/(京・住所略) 橋屋治兵衛/(同上) 菊舎太兵衛/(二人にまたがって) 寿梓」。

金撰狂歌集(内) 寛政八年 刊 金埒撰

中本(やや大型) 一冊 911.19 K1463

秋の部。「吾友軒のあるし 酒月の米人」序、黒羽二亭金埒自跋。絵入り(蕙齋政美画)。刊記「寛政八年丙辰九月十八日/通油町/萬屋重三郎」。野崎左文旧藏。

美満寿組入(序) 寛政九年 刊 烏亭焉馬編

中本 一冊 浜・774.28 I142-2

新米入道序、鯉坊主序、四方歌垣真顔跋。絵入り(清長・春湖・春好左・清信・清倍・春英・邦易祇・嵩淋・豊国画)。刊記「寛政九年/巳のむつまし月/愛慶日/書肆(江戸・住所略) 上総屋利兵衛」。石割松太郎旧藏。

白猿狂歌集(外・内) 寛政九年跋 刊 市川白猿詠・作

半紙本 一冊 浜・918.5 I14

序文中には書名「友なし猿」とあり。「狂歌集」「発句集」「ひとりこと」から成る。自序、「丁巳夏四月五老山人題于六樹園」跋(返り点略)。本文末には「寛政丁巳春三月 十日亭雨守家書」とあり。刊記「萬屋重三郎/(江戸・住所略) 伊勢屋吉藏求板」。

狂歌言葉海(内) 寛政十年 刊 路芝齋林老翁編・養老館林路産校

横本 五卷一冊 911.19 Ky421

外題「初狂歌詞の海恋四季全」。内題下には、一名「繩の帯」とあり。「東都新川の肆に隔る新豊里 問屋酒船」序、仙江亭雨風序。「七十翁南都烏髻か平安教業坊東洞の辺其松亭に記したたへつ/男(花押)」序、養老館路産凡例、「寛政丁巳之冬吐虹斎俊顕」跋。本文末に「元本/官許/安永五年歲次丙申/十二月十六日」とあり。刊記「寛政十年歲次/戊午初春開板(印文)「養老館藏版」/発行書林/江戸 須原屋茂兵衛/大坂 塩屋忠兵衛/京都 著屋儀兵衛/同 浅井庄右衛門/同 林安五郎」。書肆名のな、「藏書目録」一丁を付す。

十廻松(序) 寛政十一年序 刊 十遍舎一九編・画

中本 一冊 913.57 T049

狂歌絵本。「寛政十一とし未はつ春 十遍舎一九」自序。卷末「十遍舎一九画」。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

狂歌 狂歌みめくりはなしの種(外) 寛政十一年 刊 永楽編 中本 一冊 911.19 Mi32

同年二月の三田稻荷開帳奉納物を集めたもの。「寛政十一歳末二月 永楽蔵板」自序。狂歌額としては、本町連やすきや連等のものを収む。

こすゑのゆき(外) 寛政十一年序 刊 談洲樓焉馬等詠 大本 一冊 911.19 K099

淮南堂朱紫菅江の一周忌追善集。「寛政己ひつし冬十二月十二日」序。巻頭に、籬菊丸画く菅江座像を付す。薄墨刷り挿絵二図(北斎画く向島菅江狂歌碑と秀成画く淮南堂)。刊記「江戸(住所略)／奎運堂西田文右衛門梓」。

狂歌うひまなひ(内) 寛政十二年跋 刊 唐衣橋洲編 大本 一冊 911.19 Ky412

金鶏野客序、「寛政十二のといいやよい 尋幽亭桃吉」跋。図・絵入り。刊記「醉竹庵蔵圖」。

同(内) 同跋 刊 同編 大本 一冊 浜・911.19 Ky412 B

闇雲愚抄(見・内) 寛政十二年 刊 金鶏編 小本 一冊 浜・911.19 H41

「寛政癸丑のとし初冬 唐衣橋洲」序、「寛政十あきりふたつ」とし梓の木のみ春雨のあした文ひさくやとりの中に 瑞玉堂(板元)「序」寛政みつ」とし 金鶏野客」自跋。刊記「京都(住所略) 須原屋平左衛門／大坂(住所略) 河内屋喜兵衛／尾張(住所略) 風月孫助／東都(住所略) 葛屋重三郎／(同上) 大和田安兵衛／寛政十二年庚申春三月開鐫」。見返しには「瑞玉堂(大和田)梓」。大和田鐫版目録一丁と「燭夜文庫」の広告を付す。

燭夜文庫(外・内) 寛政十二年 刊 奇々羅金鶏作 半紙本 二卷二冊 914.5 H41 1~2

「丙辰之秋九月 橋洲散人」序、狂歌堂真顔序、「維時寛政二年庚戌壮月上澣也 四方山人」跋。漢江・東作・京伝・緑水主人の各賛。刊記「寛政庚申初夏彫行／(京・住所略) 須原屋平左衛門／(大坂・住所略) 河内屋喜兵衛／(尾張・住所略) 風月孫助／(江戸・住所略) 須原屋安兵衛」。

三都役者百人一衆化粧鏡(見) 寛政十二年 刊 八文字屋自笑撰・流光斎如圭画 大本 一冊 774 H11

狂歌入り役者肖像集。「宮参りのあしたより八十一年かはりめかゝさぬしはあすきの一人 上町の大江丸」序、甘泉道人跋。上方板だが橋洲・菅江等の詠あり。筆耕は勇々道人左、彫刻は丹羽庄兵衛。刊記「寛政十二年／庚申七月吉日／東都書房 鶴屋喜右衛

門／平安書肆 菊屋安兵衛／浪〔華書舖〕／塩屋喜助／八文字屋八左衛門 梓〔〕。後編予告あり。

〔落栗庵春興集〕 〔寛政頃〕 刊 〔元木綱撰〕 中本(やや大型) 一冊 浜・911.19 0152

外題「ヤブレ」落栗庵春(ヤブレ)集。板家常恒序。紙カバーには「落栗側狂歌集／菅竹浦氏より贈られしもの」とあり。

狂歌千代の秋(序) 〔寛政頃〕 刊 金鶏撰・勝川春湖画 半紙本 一冊 911.19 Ky455

狂歌絵本。外題「絵本千代秋」。「狂夫金鶏状の隠家に筆をとる」自序。彫工は藤一宗・山口清我・安藤園紫。刊記「御江戸通油町／書林 葛屋重三郎」。葛屋板絵本の蔵板目録一丁を付す。林忠正旧蔵。

狂歌ことのはぐさ(内) 享和元年 刊 酒月米人編 小本 二卷二冊 911.19 Ky416 1～2

内題別に「狂歌言葉種」とも。四方歌垣真顔序、「米人」初心意。刊記「享和改元辛酉載九月発行／夷曲楼蔵版／東都書林／(住所略) 葛屋重三郎／(同上) 西村源六／(同上) 竹川藤兵衛／(同上) 上総屋利兵衛／(同上) 西村弥兵衛」。拾遺を近刊予告。

蜀山余録(外) 享和一・二年 写(南畝自筆稿本) 大田南畝著 半紙本 二卷二冊 浜・914.5 081-4 1～2

同年二月から翌年四月までの大坂銅座出役中の日記風隨筆。「享和壬戌のとし水無月八日南畝子石楠堂の南軒にするす」自序。上巻奥書「享和元年辛酉七月十九日起筆于浪華／城西米屋衛衛旅次時驟雨／輕雷一洗秋暑／古花園〔〕／辛酉冬至後日卒業」、下巻奥

書「自享和辛酉仲冬十八日起筆／于浪華米市衛〔〕／尽于壬戌仲夏晦今歲暮春／廿一日発浪華孟夏七日還江／戸 杏花園〔〕」。桐箱裏書「昭和甲戌夏日／南大兄より贈るる／杏花(二代目市川左団次)〔〕」。南畝・二代目左団次旧蔵。

狂歌酔竹集(内) 享和二年跋 刊 唐衣楠洲詠 半紙本 二卷二冊 浜・911.19 Ka62-2 1～2

外題「酔竹集」。「六樹園のあるし石川雅望」序、狂歌堂四方真顔序、「壬戌の仲夏 芦辺田鶴丸」跋。

同下巻(内) 同跋 刊 同編 半紙本 一卷一冊 浜・911.19 Ka62-2 2B

狂歌鱧(目)〔初編〕 享和三年 刊 式亭三馬編 中本 一冊 浜・911.19 Ky444

「かくいふは式亭のあるし三馬」自序。丁付三十七表「享和癸亥孟陬 千秋庵」附言、同丁裏楠洲狂歌模刻。刊記「享和三つとふとしのむつきすな／つかたに多り板なりてふみの／屋におさめ置つ／(広告)〔〕印文「製本所」書林(江戸・住所略) 万屋太治右衛門蔵梓〔〕。売弘書林京・大坂・尾陽・東都各一軒。刊記の前に万屋蔵板目録一丁を付す。

狂歌・狂文・狂師歌関係和本書目

同(目) 同 同年 刊 同編

外題「ヤブレ」歌麴初編(ヤブレ)。前掲本に比し、刊記の朱印二顆がなく、万屋蔵板目録二丁を刊記の後に付す。藤井紫影旧蔵。

堀河題錢百首(外・内) 〔享和三年頃成〕 写(菅竹浦筆) 芍薬亭長根詠 半紙本 一冊 浜・11.19 Sh12

真顔旧蔵本からの転写本(昭和七年写)。巻頭に長根の「享和癸亥秋送／四方歌垣翁行駿州序」を付す。巻末に竹浦の長文の識語あり。

鶯(谷集)難集附(外) 文化元年 写(南畝自筆稿本) 大田南畝詠 半紙本 一冊 浜・919.5 O81-10

南畝の漢詩日記『南畝集』の第十四に相当するもの。「乙丑羊日杏花園主人識于巖原官舎園」自序。南畝・三村竹清旧蔵。

饒舌録(外・内) 文化元年 刊 元木綱著 半紙本 二卷二冊 浜・911.307 Mo88 1～2

見返し題「非饒舌録」。文化之元夏五 冬烘居士」序。刊記「文化元甲子年八月／東都書林(住所略)前川弥兵衛板」。

めてた物語(書外) 文化元年跋 刊 手柄岡持作 半紙本 一冊 浜・913.59 H91

作者七十歳の配り本。二則の笑話を収む。原外「よにめてきたためし／拙き哥よみし物語」。文化のはしめのとしかみなつき

城北の人」跋。識語「藤井紫影博士跋文ハ加藤千蔭ノ筆蹟ノナリト宣ヘリ依テ後日ノ為茲ニ記シ置ク／モノナリ／昭和十三年一月十九日 光辰識」「呈浜田義一郎様／昭和廿四年十一月廿六日／光辰」。高島藍泉・野間光辰旧蔵

狂歌鱗後編諸選判者之部(外) 文化二年序 刊 式亭三馬編 中本 一冊 911.19 Ky444 2

目次題「狂歌鱗後集」。「かくいふはむさしの国人式亭のあるし三馬 文化ふたとせといふとしのさつきすゑつかたふみの屋のまゝのもとにうつしをへぬ」自序。藤井紫影旧蔵。

擬新吉原細見狂歌集(序) 文化二年序 刊 芍薬亭長根撰 中本 一冊 911.19 G47

「文化二年季秋 芍薬亭主人菅原長根」自序。絵入り。見返しに「文化二乙丑年十月四日／於忍岡松坂／桜上披講」とあり。

〔逸題狂歌本〕 「文化四年」 刊 朱榮館撰 中本(やや大型) 一冊 911.19 I91

見返しは、節松嫁々の賛を配した薄墨刷り月夜の梅が枝図(尚左堂画)。彩色刷り挿絵二図(「卯青陽 柳々居政之画」「蓬洲養一筆」とあり)。

狂歌花の園(内) 文化四年序 刊 地形堂方丸撰・酔花亭山文校 中本(やや大型) 一冊 浜・911.19 Ky446

「文化といふよつのとしひのとのうのきさらき／七そちあまり三つになれる宝曆年中の／いろをとこ 手がらのをか持」自序。野崎左文旧蔵。

狂歌猿百首(外) 「文化四年以前」 刊 錢屋金埒詠 小本 一冊 911.19 Z3

四方哥垣真顔序、市川白猿序。刊記「下谷竹丁／花屋久次郎板」。

〔上館集〕 文化五年 刊 加保茶元成詠 半紙本 一冊 911.19 Ka11

「文化の五とせきさらぎ十日ばかり七十まり五つの齡手がらの岡持(略)」序、自跋。刊記「文化五年仲春 文樓」。

狂歌杓子栗(内) 文化五年 刊 便々館編 半紙本 二卷二冊 911.19 Ky4 1～2

外題「狂歌杓子栗」。「寛政十あまりひとしふみ月ふみをさらす日」酔月庵序、丹作後序。刊記「文化五年戊辰春三月発兌／江戸書林(住所略) 西村源六／(同上) 和泉屋幸右衛門／(同上) 丸屋甚右衛門」。

職人尽狂歌合(外・内) 文化五年序 刊 六樹園飯盛判 半紙本 二卷二冊 911.19 Sh96 1～2

「文化四年十月廿日あみのほりかね静慮の窓のもとにしろす」序、「文化五年辰四月 文亭一通」序。絵入り(北溪・江南司馬倅画)。刊記「大坂書林 心齋橋通 河内屋嘉七版」。

甲乙紋番附狂歌作者見立(書外) 文化五年 刊 六樹園等六人撰 半紙本 合一冊 浜・911.19 Ko78

春・夏・秋の三部合綴。内題春の部「甲乙紋番附」、秋の部「狂歌紋番附」。撰者は右一人以外に静慮園針金・千秋庵三陀羅・便々館湖鯉鮒・千首楼堅丸・浅草庵市人。絵入り(春盛画)。春の部刊記「文化五年／辰四月／十一日／披講／(略)／會主 玉光舎占正」。

とこよもの(外) 「文化五年」 刊 尋幽亭編 半紙本 一冊 浜・911.19 To34

唐衣橋洲七回忌追善集。自序、蓬洲橋実吉序。巻頭に橋洲座像(蓬洲写、悠々館待人彫)を付す。林若樹旧蔵。

信撰狂歌集(外) 文化六年跋 刊 酒月米人撰 半紙本 一冊 911.19 Sh693

内題「信撰一人一首狂歌集」。四方歌垣真顔序、「文化六年きさらぎ初手四方滝水楼酒月米人狂歌房にしるし終」自跋。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

平荷隨筆(外) 文化六年序 写 手柄岡持作

半紙本 一冊 浜・914.5 H91

転写本。「文化六とせつちのとの巳のきさらきはつかあまりいつか 手からのをか持」自序。

新撰狂歌百人一首(書外) 文化六年 刊 六樹園撰・門人玉光舎占正校

大本 一冊 911.19 Ky411

肖像集。紅翠齋北尾繁昌画。巻本に杏花園の賛を付す。刊記「文化六年己巳九月発行／(江戸・住所略)／角丸屋甚助」。

便々館春興帖(序) 文化七年序 刊 便々館湖鯉鮒撰

横本 一冊 911.19 B35

「庚午春 五軍亭」序。口絵彩色刷り(蓬洲事五七画)。

〔狂歌言葉の滝水〕 文化七年序 刊 尚左堂俊満編

半紙本 一冊 911.19 Ky49

「文化七のとし六月 尚左堂俊満」自序。絵入り。

〔大田南畝書簡〕 文化七—十一年 写(南畝自筆) 大田南畝著

卷子本 二巻 浜・915.5 O81-4

竹垣柳塘宛十九通を収む。『日本芸林叢書』所収「杏柳伝語」の原本。

第一巻

(1)二月四日(文化八年)付 (5)三月八日(同九年)付 (9)初三(六月、同八年)付

(2)閏如月十三日(同年)付 (6)三月廿四日(同八年)付 (10)十一日(五月、同九年)付

(3)閏月十五日(同年)付 (7)皐月二日(同九年)付

(4)三月朔日(同年)付 (8)さつき七日(同年)付

巻二巻

(1)文月廿日(文化九年)付 (4)八月十四日(同年)付 (7)臘九(同七年)付

(2)七月廿日(同十一年)付 (5)九六日(同年)付 (8)廿六日(十一月、同九年)付

(3)はつき六日(同九年)付 (6)師走初二(同年)付 (9)文化八年八月六日付、前半のみ)

狂歌江戸砂子集(外) 文化八年序 刊 六樹園飯盛等十九人判

半紙本 二巻二冊 911.19 Ky457 1~2

撰者は右以外に便々館湖鯉鮒・淮南堂眉住・浅草庵市人・平秋庵東作等。「文化八のとし卯のむ月 千秋二世千首楼堅丸」序。続編等二部の書を近刊予告。

もとのしづく(外・扉) 文化八年序 刊 梅園静蘆編

半紙本 一冊 浜・911.19 Mo882 B

元木綱道善集。蜀山人序、「文化八とせといふとし神無月 椎園由豆流」序、自跋。

同(扉) 同序 刊 同編

半紙本 一冊 911.19 Mo882

替表紙で、書外題「もとの雫」。

狂画像作者部類(外) 文化八年 刊 六樹園撰

大本 二卷合一冊 911.19 I76

肖像集。外題は原見返し of 切り張りか。自序。「五清画」(五清像のみ清澄画)。刊記「文化辛未季秋発行(広告) / 書肆 / 東武

角丸屋甚助 / 尾張 永楽屋東四郎梓」。

[同] 同年 刊 同撰 大本 二卷二冊 浜・911.19 I76 1B~2B

狂歌浜荻集(内) 文化九年 刊 便々館湖鰯鮒撰

中本 三卷三冊 911.19 Ky437 1~3

外題「類題狂歌浜荻集」。見返し題は「類題 / 狂歌」と角書。「文化三とし冬の日」自序。刊記「文化九申年秋発行 / 東都 / (住所略)山城屋佐兵衛 / (同上)山城屋新兵衛(南寿堂)」。見返しには「東都書賈 南寿堂」とあり。

万代狂歌集(外・内) [文化九年] 刊 六樹園・塵外楼撰 半紙本 六卷四冊 浜・911.19 Ma43 1~4

蜀山人序、宿屋飯盛自序、塵外楼清澄自跋。江戸・角丸屋甚助藏板目録四丁を付す。

狂文吾嬬なまり(内) 文化十年序 刊 飯盛述・清澄校 半紙本 二卷二冊 917 I76 1~2

外題「狂あつまなまり」。「文化十とせといふとし文月星まつる夜清めたる硯にむかひて 東夷庵古渡」序。江戸・角丸屋甚助藏板目録四丁を付す。

同(内) 天保十年 刊 同述・同校 半紙本 二卷二冊 浜・917 I76 1B~2B

前掲本に比し、書外題で、藏板目録がない。刊記「天保十己亥初夏 求板 / 江戸書林 / (住所略) 須原屋茂兵衛 / (同上) 岡田屋嘉七」。

狂歌あきののら(外) 文化十年 刊 萩の屋裏住撰 半紙本 二卷二冊 911.19 Ky463 1~2

「四仲秋 合歡堂」序。刊記「文化十癸酉季八月 / 東都 / 書肆 / (住所略) 竹川藤兵衛 / (同上) 愛智屋善兵衛」。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

狂歌水篋集上(外・内) 文化十一年序 刊 四方滝水米人撰

半紙本 一冊 911.19 Ky464

上巻のみで完。「文化十一年むつきやうかの日 四方滝水米人」自序、「文化十一年竹うゝる日 後吾友軒酒月又香」跋。絵入り(尚左堂後満画)。

狂富士賛(外・扉) 文化十一年 刊 即斎河丸撰

中本 一冊 911.19 F66

序題「狂歌富士賛」。「葉流軒多田/即斎河丸」自序、一文舎銭丸跋。巻頭に貞佐・貞柳・貞右の各富士山詠を収む。全丁富士山等の図入り(丹羽桃溪画)。片岡新藏の彫、葉流軒蔵版。刊記「文化十一年/甲戌仲秋/書林/扇屋利助/藤屋九兵衛」。

今日歌即考隨筆(外) 「文化十一年成」 写(焉馬自筆稿本) 烏亭焉馬詠 小本 一冊 浜・911.19 U962

表紙に「文化九年壬申春/今日歌即考隨筆/同十年草稿/七十翁 談洲楼/焉馬」と墨書。「青柳館蔵」と刻された野紙使用。渡辺霞亭・三村竹清旧蔵。

〔狂画苑〕 文化十二年 刊 葛飾北斎筆・門人北亭墨僊校 半紙本 一冊 721.8 Ma34

狂歌絵本。彩色刷り。「文化六巳春 月光亭墨僊」自序。刊記「文化十二 孟春/書林/(江戸・住所略)角丸屋甚助/(名古屋・住所略)松屋善兵衛」。江戸芸術社旧蔵。

玉のいざこ集(序) 「文化十二年」 白銀伊佐子編 半紙本 一冊 911.19 Ta78

尾題「五砂集」。「京」(京伝か) 序、狂歌堂真顔序、清風亭いざ子自跋。絵入り。

〔狂歌番附〕 文化十二—文政末頃 刊 十一枚 911.19 Ky462 1~11

1 狂歌相撲合 行司・遊花亭(文化十二年十月) 7 狂歌合点角力 撰者・久太楼姫丸(文政十一年十月)

2 同 同 (文政二年十一月) 8 狂 三合角觥立 撰者・聴風軒等五人(同十二年三月)

3 狂歌一会大角觥 行司・三日坊等五人(同三年六月) 9 戯咲歌一会相撲立 撰者・橘庵田鶴丸(十一月)

4 狂歌相撲合 行司・遊花亭(同年十一月) 10 錢別一会角觥 行司・岳亭大人等五人(同月)

5 狂歌一会大角觥 行司・六樹園等五人(同四年九月) 11 狂歌大角觥 行司・六樹園等五人

6 一会狂歌左右合 行司・鹿笛庵静音等四人(同年十二月)

南畝秀言(外・内) 文化十四年 刊 杏花園著・門人文宝亭筆録 大本 二卷二冊 浜・914.5 081-5 1~2

「丁丑小春 杏花園主人圍圍」自序、文宝亭跋。薄墨刷りを含む絵入り(文宝亭・文鳥斎・雷州画)。刊記「文化十四丁丑年初冬／東都書林／(住所略)角丸屋徳三郎／(同上)角丸屋甚助圍」。甚助蔵板目録四丁を付す。

千紅万紫(外・内) 文化十四年 刊 蜀山人詠・作 中本 一冊 浜・911.19 081-9

内題下に「初集」とあり。「文化丁丑の春食山人飯台にしろす」跋。扉あり。刊記「文化十四丁丑／孟春／東都書肆／(住所略)角丸屋甚助／同 徳三郎。甚助蔵板目録七丁を付す。跋の丁裏に「蜀山先生著述目録」として四作を広告。

万紫千紅(外・内) 文化十五年 刊 蜀山人詠・作 中本 一冊 浜・911.19 081-10

「文化十五戊寅春 四方歌垣」序、「前編のまたもりかへの食山人文宝亭の台どころ引窓の下に雑ばしならで筆を採る 文化十五とせといふとしのはるのはしめもちかゆのせち祝ふ比」跋。扉あり。刊記「文化十五戊寅年／孟春／東都書肆／(住所略)角丸屋甚助／同 徳三郎」。甚助蔵板目録七丁を付す。

同(外・内) 同年 刊 同人詠・作 中本 一冊 浜・911.19 081-10 B

蜀山人自筆百首狂歌(扉) 文化十五年 刊 大田南畝詠・編 大本 一冊 浜・911.19 081-6

蜀山人自跋。刊記「文化戊寅孟春／此本限千部／一字以為証」。次の行に墨筆にて「五百廻四百二十〇圍」。南畝私家版。

〔蜀山人自筆文書〕 文化年間 写(南畝自筆) 大田南畝著 卷子本 一巻 910.238 081-5

馬蘭亭山道高彦に書き送った、十八種の書簡・詠草等を受む。永田玩古序、八十翁□□園跋。

(1) 九月十一日(文化元年)付書簡 (8) 七夕狂歌七首(同九年七夕)

(2) 九月小尽(同年)付書簡

(3) 十二月六日(同年)付書簡 (9) 市川錦升・同三升・岩井杜若を詠める狂歌三首(同七年十一月)

(4) 『南畝集』十七(同六年)の詩五篇 (10) 正月十六日(同二年)付書簡

(5) 二月廿五日(同二年)付書簡 (11) 書簡(同元年一、二月頃)

(6) 葉月廿四日(同年)付書簡 (12) 狂歌六首(同元年暮から翌年正月にかけて)

(7) 是政村里正河辺氏庭前の図と詩(同六年元旦) (13) 歳暮の狂歌四首(同六年暮)

(14) 大晦日府中の市の図と文(同五年大晦日)

(15) 拓本と解説文(年次不明)

(16) 毎月十九日の狂歌会兼題一覽(文化元年八月から翌年十一月)

(17) 狂歌師百人の姓名等一覽(他筆混じる。年次不明)
(18) 兼題狂歌百首(他筆)と南畝の批点(文化元年十一月と十二月分)

春の歌(外) 「文化頃」 刊 「便々館湖鯉鮒撰」 升型本 一冊 911.19 H34

巻頭に食山人書の蜀山人詩・狂歌を付す。彩色刷り口絵(雪峰画)と同挿絵一図(柳花園画)。

みやこのつゝれ(書外) 「文化頃」 刊 五車亭等八人撰 半紙本 合一冊 911.19 M176

月次狂歌集の合綴本。撰者は右一人以外に巴扇堂・守信亭・便々館・淮南堂・楊柳亭・焉馬・瓢箪園。絵入り(月釣・玉芝・文信・広昌・一崖画)。

絵本百物語(外) 文政元年 刊 腹唐秋人撰・北尾政美画 半紙本 二卷合一冊 浜・911.19 E352

狂歌絵本。外題角書「はげもの／がくやさがし」。「寛政庚戌年春正月 腹唐秋人」自序。刊記「文政元戊寅年仲夏吉日／江戸書物問屋(住所略)前川六左衛門(同上)北島長四郎(同上)山田佐助」。八部の書を広告。

俳諧歌老若百首(卷之下)(内) 文政元年 刊 紀真顔撰 半紙本 一冊 浜・911.19 H157 2

奥に「文政元寅年」とあり。

四方の留粕(外) 文政二年 刊 四方赤良作・真顔編 半紙本 二卷合一冊 浜・917 081-2 B

内題上巻「四方の留糟」・下巻「よものとめかす」。「文政二年己卯正月吉日 四方歌垣真顔」序。刊記「文政二年己卯陸月刻成／江戸書買(住所略)西宮弥兵衛(同上)上総屋利兵衛／同志離」。

同(外・内) 同年 刊 同作・同編 半紙本 二卷二冊 浜・917 081-2 1~2

前掲本に比し、上巻内題の「糟」を「粕」と入木する。

我おもしろ(内) 文政二年序 刊 手柄岡持作・平沢大奇編 半紙本 二卷二冊 911.19 H91 1~2

外題は「岡持家集」を冠する。「文化の暦も十あまり一ツかさなれるきのえ戌のとし葉月の比 六十六翁蜀山人」序。「寛政元年己酉季の秋 手柄岡持」自序。「文政二年夏 男平沢大奇」序、芍薬亭長根跋。江戸・青雲堂英文蔵の広告を付す。

同(内) 同序 刊 同作・同編 半紙本 二卷二冊 浜・911.19 H91 a1~a2

前掲本に比し、長根の跋文がなく、新たに英文藏版目録三丁を付す。

狂歌竹の林(外) 文政二年 刊 竹房閑人白酒撰 中本(やや大型) 一冊 911.19 Ky447

白酒判者披露賀集。七十七翁桃栗山人焉馬序。彩色刷り口絵青版画。蜀山人・馬琴・種彦・三馬等が祝詠を寄せる。奥に「文政二乙卯年喜久月」とあり。

狂歌笛竹集(外・内) 「文政二年」 刊 六樹園飯盛撰 半紙本 二卷二冊 911.19 Ky47 1~2

自序。絵入り(京伝・一九・清澄・慈悲成・焉馬・六樹園・種彦・三馬・蘭薫亭・真顔・千春画)。大坂・鶴頭青黎館(今津屋辰三郎)藏板目録二丁を付す。

撰狂歌五十人一首(外) 「文政二年」 刊 六樹園撰・六樹園南北校 大本 一冊 911.19 Sh692

肖像集。内題「新撰狂歌五十人一首」。自序。「北溪画」。「京三条通柳馬揚角 本屋板」として二部の書を広告。

四季扇絵合(外) 「文政三年以前」 刊 尚左堂春満画 半紙本 一冊 911.19 Sh34

狂歌見立絵本。表紙に「全図狂歌入」「各案／狂歌連中」「西井細工／尚左堂窪俊満」と刻す。

狂譚弄花集(外) 文政三年 刊 橋庵田鶴丸撰 大本 一冊 911.19 Ki445

肖像集。積素亭序(寛政九年仲夏の唐衣橘洲の一文を含む)。輯者・後佩詩堂右馬耳風、校者・同導堂福洲、画者・月光亭墨徳及び不断庵大江玉湧。「文化といふ年のをまりよとせといふとしのふみ月 右馬耳風」跋(ただし全文補写)。刊記「文政三庚辰孟春発行／尾張書林／菱屋久八／井沢屋和助／白木屋平助／美濃屋市兵衛」(ただし全文補写)。

ことし俵(内) 文政四年序 刊 大湊舎田原船積編 半紙本 二卷二冊 911.19 Ko94 1~2

外題「狂文古登志多和羅」。六樹園序、「文政辛巳のはる 十返舎一九」序、加藤元越跋。絵入り(一九風の画)。丁付上巻は漢数字のみだが、下巻は漢数字の上に「上」の一字を付す。

狂歌蓬の露(外) 文政四年 刊 浅茅庵撰 半紙本 一冊 911.19 Ky456

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

壺瓶楼万丸追善集。見返し題「壺瓶楼追福」。巻頭に万丸の座像（鼎固画）を付す。口絵同人画。見返しに「催主 上毛桐生青柳
総連」、奥「文政四辛巳歳六月五日開巻」。

狂歌長瀛賦（外・内） 文政四年 刊 六樹園等七人撰 半紙本 一冊 911.19 Ky460

絵入り（北溪・文斎画）。奥「右文政四年辛巳九月廿日於飯田町宇治橋楼開巻」。表紙に「集者／反故堆／水基跡成」と刻す。

納会狂歌合（外） 文政四年 刊 浅桐庵立評 半紙本 一冊 911.19 N93

見返し図蹄齋画。奥「文政四年霜月十一日開巻」。表紙に「差副 万歳総連／催主 四季花道」と刻す。

草のはら（外） 文政四年 刊 六樹園判・彷徨亭仕集 半紙本 一冊 911.19 I76-2

景山亭烟零余子追善集。六樹園自序、追悼詠。彩色刷り烟零余子座像（北溪画）と辞世を付す。奥「右文政第三年庚辰集／翌四年
辛巳冊成披講畢」。

〔狂歌三十六歌僊〕 文政五年 刊 六樹園・西米居撰 半紙本 一冊 911.19 Ky426

前半肖像集。書外題「六々歌僊」。六樹園自序。刊記「文政五壬午季十二月廿五日於信楽／楼上開巻／揮毫 北柴子捨魚／画図

岳亭定岡／雕工 玉光舎占正／反故堆主人歳」。

連名披露狂歌合（外） 〔文政五年〕 刊 浅茅庵判 半紙本 一冊 911.19 R272

五百機連披露集。「略」千里をはしるうまのとし（略）壺泉楼竜海」序。表紙に「催主 上野桐生 五百機連」と刻す。

〔月次狂歌集題「駕」〕 文政六年 刊 浅黄堂染人撰 半紙本 一冊 911.19 N63

見返し図友文画。本文末に「文政六年癸未二月十日開巻」、次いで同年三月浅桐庵における浅草庵撰の部を付す。表紙に「催主
上野桐生 万歳連」と刻す。

〔鯉魚賛 他〕 〔文政六年以前成〕 写（〔南畝自筆〕） 〔大田南畝作〕 折本 一冊 浜314.5 O81-2

〔初鯉〕・〔達摩賛〕・〔貧乏神〕・〔傾城〕・〔木兎〕・〔三哲（途中まで）〕の各題の狂文・狂歌を収む。

〔同〕 文政八年 写（文宝亭食山自筆） 〔同作〕 折本 一冊 吉・914.5 O81

南畝の前掲本を文宝亭が写したものの。箱書には「文政乙酉季夏／蜀山人太田南畝筆」とあるが、奥書「文政乙酉季夏／文宝堂食山

書(△の中に「蜀/山」と刻す朱印あり)。前掲本と同文を、題を付した上で順序を変え、新たに「儒者」「傾城(別内容)」「富士」「鬼念仏」の各狂文・狂歌を収む。

狂歌英雄五十人一首(外) 文政七年序 刊 歌蔭撰 半紙本 一冊 911.19 Ky413

彩色刷り肖像集。「文政甲申春 芍薬亭」序。蜀山人の狂歌模刻あり。

南畝帖(外) 文政七年 刊 蜀山人詠 大本 一冊 911.19 O81-3

賀茂季鷹序、「甲申之春 浪華南宮」跋。彩色刷り絵入り(孔真画)。刊記「文政七年甲申九月発行/江戸/須原屋茂兵衛/和泉屋

庄次郎/鶴屋金助/京都/植村藤右衛門/勝村治右衛門/出雲寺文次郎/大阪 秋田屋太右衛門」。

同(外) 同年 刊 同詠 大本 一冊 浜・911.19 O81-3 B

仮名世説(外・内) 文政七年序 刊 蜀山編・文宝堂散木補 半紙本 二卷二冊 浜・914.5 O81-6 1~2

「文政七年歳在甲申閏八月上浣 北峰山崎美成」序、文宝堂跋。南畝肖像画(文宝堂写)を付す。薄墨刷り挿絵一函(西村重長筆、文宝堂写)。刊記「文化七庚午歳孟春/池之端仲町 雁金屋政五郎」。蜀山著述六部を広告。

同(外・内) 同序 刊 同編・同補 半紙本 二卷二冊 浜・914.5 O81-6 1B~2B

前掲本に比し、挿絵の薄墨がなく刊記もないが、見返しがあって、そこに「東都書林 瑞星堂寿梓」。

狂歌現在奇人譚後編・三編 歌之部(内) 文政七年 刊 八島定岡作・撰 大本 三編五卷五冊 911.19 G16 1~5

後編「文政七年歳次閏逢泥灘閏八月 源朝臣光博」序、「文政七年閏八月 福廻屋内成」跋。三編六樹園序、文々舎蟹子丸跋。後

編・三編絵入り(自画)。後編刊記「東都書房(住所略) 大坂屋茂吉」。歌之部奥「文政七甲申年九月 東武 神歌堂定岡撰」。後

編で四部の書を近刊予告。

俳諧歌丙戌百首(外・内) 「文政九年」 刊 燕栗園千穎撰 半紙本 十卷十冊 911.19 H152

最後に自詠の「十二月晦日夜作長歌並短哥」を付す。十巻尾題に「大尾」とあり。

百化鳥(序) 文政十年序 刊 夕顔亭元成編・有一画 半紙本 一冊 911.19 H99

狂歌見立絵本。「丁亥初秋 夕顔亭元成」自序。国香山人題詩。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

狂歌今昔物語上(外・内) 〔文政十年〕 全亭正直編

大本 一冊 未整理本

六樹園序、東夷庵古渡序。口絵青斎夏山西。

三才花百首(外・内) 文政十一年 刊 六樹園等九人撰

半紙本 一冊 浜・911.19 Sa662

六樹園自序。彩色刷り口絵呉北溪画。筆耕・風香堂、彫工・玉光舎、会主・春友亭。刊記「文政十一年四月廿六日於兩國柳橋／河内屋楼上開卷／春友亭藏板」。

狂歌玉水集(外) 文政十一年序 写(玉晁自筆本)

山月楼水丸・連城亭玉晁詠

半紙本 一冊 911.19 Sa63

「文政なる十あまり巷つものとしふみ月のなかは あふきの水丸」自序、「子の文月なかは たまあきら」自跋。水丸と玉晁の座像等全十一図を彩色して収む。小寺玉晁旧藏。

改狂歌新曆抄(外) 〔文政十一年〕 刊 臥竜園撰

半紙本 一冊 911.19 Ky459

狂歌都名物集(内) 文政十二年跋 刊 九日庵等四人撰

半紙本 三卷三冊 911.19 Ky21 1~3

見返し題「狂宮古名物集」。撰者は右一人以外に聴風軒・橋庵・玉兎園。酔舟道人序、藍洲題詩、「文政十二年の春 江戸 千種庵主人」跋。彩色刷り絵入り(青洋・君草画。一図に「己丑之初夏写」とあり)。刊記「平安／玉兎園藏板／製本所 狂哥書林 大坂(住所略)千里亭扇屋利助」。「美人菱花集」を近刻予告。野崎左文旧藏。

三才月百首(外) 文政十二年 刊 浅草庵等九人撰

半紙本 一冊 911.19 Sa66

浅草庵自序。彩色刷り口絵呉北溪画。儲書・三木楓斎、彫工・中村二潮、摺工・ヌカ富、会主・春友亭。刊記「文政十二年己丑夏四月行成／春友亭藏」。序文と口絵は東京都立中央図書館本の複写。

狂歌後杓子栗(内) 文政十二年 刊 便々館編

半紙本 三卷四冊 911.19 Ky424 1~3

外題「狂歌後杓子栗」。上巻・春夏、中巻・秋冬、下巻・恋、下末巻・雑。上巻に便々館藏梓、同見返しに「江戸書賈 名山閣(和泉屋吉兵衛)」とあり。刊記「文政十二己丑冬十月／江戸書林(住所略)和泉屋吉兵衛」。本書と前編を広告。

朝顔百首狂哥集(内) 文政十二年 刊 唐樹園南陀羅撰

半紙本 一冊 911.19 A81

外題・見返し題は「狂哥」が「狂歌」。六樹園序、鶴廻屋序、「文政己丑秋八月 有吉革」序、「文政十二年己丑秋九月 備前児島

南河 田原深一跋、「大江戸の文齋万陀伎」跋。壺中醉民漢詩贊と、彩色刷り朝顔圖(岳亭画)に六樹園賛あり。刊記「文政十三年庚寅正月／備前難田浦 靈龜連藏／製本所(大坂・住所略)狂歌書林 千里亭」。見返しに「千里亭梓」。七部の書を広告。

狂歌二十四剛(外) 文政十三年 刊 千柳亭撰 半紙本 一冊 911.19 Ky419

前半は肖像集(吳北溪画)。千柳亭自序。巻頭に飯盛・市人・三陀羅の詠を彩色刷り短冊にして付す。奥「文政十三年四月廿八日於千錦堂開筵」。表紙に「住主 仙府梅菊連」と刻す。

狂詠五十鈴川(内) 文政十三年 刊 橋庵・戲坊・聽風軒撰 半紙本 一冊 911.19 Ky2

外題「狂歌五十鈴川」。扉題「狂詠五十鈴川集」。「吉備の道の中よりこの難波の小柴舎に來りをる中村寛」序。口絵橋亭画。会主は月廻屋・秋水園。刊記「文政十三年寅秋八月／書房(大坂・住所略)千里亭 扇屋利助」。

濤花集(外) 文政十三年 刊 戲咲歌園百兄等四人撰 半紙本 一冊 911.19 Tō28

初代・三代湖鯉鮒追善集。見返し題「戲咲歌濤花集」。内題「初代三代湖鯉鮒追福濤花集」。戲咲歌園百兄自序、「文政十三年寅中秋 四ッ谷庵主人 津江源正政」序、濤樹園影枝跋、「文政十あまり三とせといふとしの後の弥生 湖川樓のあるし堰」跋。彩色刷り口絵土佐相覽画。書・包嬉園広好。刊記「文政十三年寅年閏三月十八日／両国柳橋於河内屋開卷／同八月行成／発起／四ッ谷庵月良／湖川樓堰／催長／松濤齋調意／濤鳴庵沢利／彫刻 玉光舎占正」。

狂歌紅鏡集(内) 文政十三年序 刊 臥竜園梅麿撰 半紙本 一冊 911.19 Ky458

扉題「奉額狂歌紅鏡集」、見返し題は扉題に角書「淡海旭里／綿向社」。「文政十三年寅年泊の月 臥竜園」自序。初めの十丁半は彩色刷り奉納額圖(吳北溪・葵岡溪栖画)に狂歌を記す。揮毫・背原庵広好、彫刻・江川亭春澄、摺工・スカ富。会主は池廻屋真澄・龜廻屋長年・松園梅明。見返しに「文政十三年寅年／十月十日／於春友亭開卷」とあり。扉に「日野／花園連」と刻す。

俳諧歌追福香花集(内) 〔文政十三年〕 刊 森羅亭万象・弥生庵雛丸撰 半紙本 一冊 浜・911.19 H155

四方真顔一周忌追善集。外題「追福香花集」。森羅亭自序。「台陽 御歌」及び出詠者因別一覽を付す。

〔狂歌集〕 〔文政前期〕 刊 六樹園飯盛撰 半紙本 二種合一冊 911.19 Ky423

飯盛の月次狂歌集合綴本。前半部の書名不明。後半部は文政二年の『狂歌笛竹集』下巻。ともに絵入り。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

俳諧歌十哲集(外) 〔文政末頃〕 刊 寿庵広貞等十人撰 半紙本 二卷二冊 911.19 H158 1~2

彩色刷り口絵森高雅・佳雪画。橘庵老師判の部あり。

〔狂歌集〕 〔文政頃〕 刊 六樹園・芍葉亭等十九人撰 半紙本 一冊 911.19 Ky453

諸職業等を兼題とした水魚連の月次本。外題「狂歌書画(カスレ)」。六樹園序。口絵及び巻末絵彩色刷り。画図・呉北溪、書画・五山や文晁等諸名家。

狂歌三都名所図会(内) 〔文政頃〕 刊 六樹園撰・毛穎堂軸成輯 半紙本 一冊 911.19 Ky420

絵入り(拱斎北溪画)。

狂歌渚玉集(書外) 〔文政頃〕 刊 一円窓文字丸撰 半紙本 合一冊 911.19 Ky465

文字丸撰の月次合綴本。一部に六樹園・芍葉亭撰のものが混じる。一部薄墨刷りの絵入り(玉丸・福辺庵・栢樹庵・東遠・南海・倉積・雪衡・武陵画)。

俳諧歌集(書外) 〔文政頃〕 刊 半紙本 三種合一冊 浜・911.19 H1510

(1)紀真顔撰「俳諧歌陸玉百首上巻」(内題)。

(2)橘庵等九人撰、橘庵東遊の「響応二十一評相撲立」(内題)。六樹園・真顔各判の当座あり。

(3)書名不明。臥竜園撰で、前半は肖像集。

俳諧譚森廼下風(外・内) 〔文政頃〕 刊 四方真顔等六人撰 半紙本 一冊 浜・911.19 H156

四撰者(森昌亭実乗・雪廼屋森蔭・森集亭繁門・悠々館名可記)の判者披露集。森羅亭自序。

歌の友ふね中(外) 〔文政頃〕 刊 梅廼屋鶴子撰 半紙本 一冊 911.19 U96

彩色刷り絵入り(五渡亭国貞画)。見返しに「催主 本町連蔵板」とあり。

狂歌近采風体集(内) 〔文政頃〕 刊 孤鶯亭二祖風来山人撰 半紙本 二卷二冊 911.19 Ky454 1~2

外題は「狂 近采風体集」。自序、「江戸書林/西村源六/西宮太郎」序。刊記「江戸(住所略)/文刻堂西村源六発兌」。

狂哥宮木杣(外) 天保二年 刊 杣酒屋葉撰

中本 一冊 911.19 Ky449

鶴酒屋序、自跋。彩色刷り絵入り(紅園・梅園・岳亭画)。刊記「天保元年庚寅十二月十一日於浮瀨楼上披講ノ杣酒屋藏園ノ天保式辛卯正月ノ大坂(住所略)ノ製本所 狂哥書林 千里亭」。

狂哥美人菱花集(内) 天保二年 刊 千種庵・橋庵両撰

半紙本 一冊 911.19 Ky43

見返し題「美人菱花集」。「天保二とせの秋 曳尾」序。扉は故浅草庵守舎の詠。口絵・挿絵・巻末絵すべて彩色刷りで青洋画。刊記「天保二載辛卯夏六月彫成ノ皇州 玉兎園 藏板ノ浪花(住所略)千里亭 寿梓」。

同(内) 同年 刊 同両撰

半紙本 一冊 浜・911.19 Ky43 B

外題「菱花集」とある以外、前掲本に同じ。

狂歌美多嘉楽集(内) 天保二年 刊 鶴酒屋梅好等四人撰

半紙本 一冊 911.19 Ky429

外題「ヤブレ」嘉楽(ヤブレ)。柱刻「狂歌三宝集」。前半は肖像集。撰者は右一人以外に泥田坊・杣酒屋・聴風軒。「あまたも」ふたとせふゆのはしめ 杣酒屋」序。絵入り。刊記「天保二年辛卯秋九月ノ北窓(鶴酒屋)藏」。

狂哥蘭亭帖(内) 天保二年 刊 臥竜園等四人撰

半紙本 一冊 911.19 Ky415

外題「狂譚蘭亭帖一名曲水集」。撰者は右一人以外に万榮亭・玉兎園・橋庵。「天保二辛卯年季秋 橋中館墨題」序、「天保二載辛卯季冬上流於含翠園中 玉兎醉識」跋。彩色刷り絵入り(青洋画)。刊記「天保二年辛卯臘月彫成ノ平安 白菊亭藏板ノ同(住所略)都文園本城小兵衛」。

狂歌三十六歌仙(見) 天保三年 刊 唐樹園南陀羅撰

半紙本 一冊 911.19 Sa64

外題・内題「狂歌略画三十六歌仙」。前半は彩色刷り肖像集(東都岳亭画)。「文政庚寅秋 思慮迂夫」序、「文政十あまり三ツのとし霜月むゆか 鶴酒屋」序、「文政十三年庚寅五月観活約日識於五花樹園中 竜屋」跋。作者姓名部類と飯盛の狂歌模刻を付す。刊記「天保三千辰歳七月ノ製本所 狂歌書林(大坂・住所略)千里亭 扉屋利助」。

新撰七夕狂歌集(外・内) 天保三年 刊 唐樹園南陀羅撰

半紙本 一冊 911.19 Sh69

「天保三年といふとしの秋 石津亮澄」序、「天保二年卯至日 偃松鋤」序、「小竹散人満」跋。見返しを含め彩色刷り絵入り

狂歌・狂文・狂歌師關係和本書目

〔東武の五湖亭英齋園景画〕。本文末に「天保三千辰歲九月刻成」、刊記「天保三千辰歲七月／製本所／狂歌書林（大坂・住所略）千里亭 扇屋利助」。見返し「浪花 壘上千里亭梓」。『備前難田浦靈龜連藏書』として十五部を広告。

狂歌五言集(扉・内) 天保三年 刊 全亭・千柳亭撰 半紙本 一冊 911.19 Ky452

義之卷。外題角書「壬／辰」。絵入り(所々に肖像画を収む)。

草庵五百人一首(外) 天保四年序 刊 黒河春村撰 大本 三卷三冊 911.19 So11 1~3

肖像集。「天保癸巳冬十一月 錦園天野好之」序、「千種庵のふた世のあるし口網諸持」序、「天保四年十二月 黒河春村」凡例。

広陵集(内) 天保四年 刊 菅原長根詠 半紙本 八卷二冊 911.19 Ko79 1~2

外題・序題「芍薬亭詠藻広陵集」。表紙・後表紙ともに、雲英入りで彩色刷りの芍薬花を配す。「松齋のあるじ子をおもふ鶴の翁(詠者父)」序。彩色刷り絵入り。本文前に「芍薬亭座右銘」を付す。刊記「天保巳癸年冬刻成／松齋鶴翁／護心亭三猿／蔵板／武隈庵双樹／栗花園総長／同校」。

追福一会狂歌合(内) 〔天保四年〕 刊 緑樹園元有撰 半紙本 一冊 911.19 Ts39

蔵器園長人追善集。外題「〔あなうのはな〕」。巻頭に東都法橋光一画く長人座像を付す。口絵同人画。

狂歌名所百首(内) 天保五年 刊 芍薬亭撰 半紙本 一冊 911.19 Ky425

外題「(ヤブレ)首」。薄墨刷り絵入り。刊記「天保五年年新春 武隈庵蔵」。

戯劇百人一首闇夜際(見) 天保六年跋 刊 越谷山人鱗齋編 中本 一冊 未整理本

「天保四とせ癸巳初春 四方滝水」序、「乙ひつし春日 鱗齋鮎」自跋。全丁薄墨刷り絵入り(眉山竹孫画)。刊記「江戸／地本問屋(住所略) 竹内孫八板」。見返しには「天保四癸巳／孟春改刻 保永堂(右の孫八)梓」とあり。

紅叢紫籙(外) 天保六年 刊 黒河春村・村田元成撰 半紙本 一冊 911.19 Kc88

勝田諸持序。春村添詞、彩色刷り絵入り(其一画)。刊記「天保六年乙未孟秋彫成／文接浅茅生軒／用佐広好書／江川道守刀」。

豊穂集(外・内) 〔天保六年〕 刊 千種庵諸持撰 半紙本 一冊 911.19 Kc85

前半は肖像集。「ちくさのやのあるし勝田諸持」自序。

狂歌秋の寝覚(外・内) 天保七年序 刊 芍薬亭・臥竜園撰

半紙本 一冊 911.19 K4428

序題「狂歌歌枕秋寝覚」。「天保七年春 芍薬亭」自序。薄墨刷り口絵青洋画。

〔狂歌鐘声抄〕 天保七年序 刊 篤垣真葛撰

半紙本 一冊 911.19 SH962

彩色刷り略画肖像集(一立斎広重画)。「梅園樵叟 比はひのえさるのとしさつきとをかふつかになん」序。

俳諧歌要風流集(内) 天保七年 刊 生花斎照道撰

半紙本 七卷合一冊 911.19 H15

絵入り(人物略画)。巻七尾題に「満尾」とあり。奥「天保七年丙申九月」。

柳花集(内) 天保八年 刊 村田元成・遊女浅茅生撰

半紙本 一冊 911.19 R98

「天保七年九月 薄斎春村」序、柿園元成自跋。彩色刷り口絵村片相覧・鈴木其一画。書・松本盛儀及び川佐広好、刻・江川道守。奥「天保八年酉三月彫成」。

江戸名所図会(外) 天保八年 刊 浅草庵春村等三人撰

半紙本 一冊 291.36 E246 1

内題「江戸名所前編」。撰者は右一人以外に花の屋光枝・千種庵諸持。彩色刷り口絵柳川重信画。刊記「天保八年四月刻成 千束庵藏」。

連環集(内) 天保十年 刊 玉兔園寸美齋等十二人撰

半紙本 一冊 911.19 R27

外題「狂歌連環集」。口絵の肖像集北溪画。刊記「天保十亥初冬刻成／春友亭藏」。

〔狂歌漫吟〕 天保十一年序 写(千柳亭自筆稿本) 千柳亭唐齋

半紙本 一冊 911.19 S672

天保十年十一月より同十四年五月までの千柳亭狂歌日記。

俳諧歌清涼集(外・内) 天保十二年序 刊 狂歌堂等三人撰

半紙本 一冊 911.19 H159

真顔十三回忌追善集。撰者は右一人以外に梅廻門・蕙垣真葛。「かのとの丑のとしのみなつき 北静廬」序。彩色刷り真顔座像を付す。彩色刷り口絵北溪画。巻末に国別作者一覧を付す。

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

蜀山人狂歌図会初編(外) 天保十三年 刊 蜀山人詠

中本 一冊 浜・911.19 O81-5

全丁絵入り。口絵薄墨刷り。貞房画。刊記「天保十三壬寅年三月新刻ノ(江戸・住所略)吉田屋文三郎」。「孝経余師」を広告。

狂歌新部領使(内) 天保十四年 刊 芍薬亭撰

半紙本 一冊 911.19 Ky450

「天保癸卯七十六齡行司 芍薬亭」自序。薄墨刷り絵入りで、巻頭には薄墨刷り肖像集を付す。巻末に作者甲乙録あり。奥「天保癸卯夏」。

三玉秋祝(外・内) 「天保頃」 刊 黒河春村撰

半紙本 三卷三冊 911.19 Sa632 1~3

各巻末に「拈桂籤」を付す。

新室披露富草集(内) 「天保頃」 刊 芍薬亭等四人撰

半紙本 一冊 911.19 N72

外題「狂歌富草集」。撰者は右一人以外に琴通舎・千種庵・臥竜園。彩色刷り口絵雲峰・大峰等画。筆工・包嬉園、彫工・江川亭、摺工・ヌカ富。会主・春友亭。秋葉義之旧蔵。

狂歌芋環集(扉) 「天保頃」 刊 梅豊屋鶴子撰

半紙本 合一冊 911.9 Ky466

月次二会分の合綴本。絵入り(溪斎画)。

狂歌くらへ馬(外・内) 「天保頃」 刊 松園梅明撰

半紙本 一冊 911.19 Ky410

口絵広重画。巻末に初会から三会目までの甲乙録を付す。

狂歌十題集(内) 「天保頃」 刊 花咲庵等十六人撰

半紙本 一冊 911.19 Ky434

尾題「水魚十題集」。口絵一立斎広重画。

狂歌三十六歌仙集(内) 「天保頃」 刊 燕栗園等三人撰

半紙本 一冊 911.19 Ry414

撰者は右一人以外に富の門・松園。彩色刷り口絵頭幽斎一信画。奥「下絵閑宿ノ鳩連蔵板」。

俳諧歌六々画像集(見) 「天保頃」 刊 秋長堂・四方滝水撰

半紙本 一冊 911.19 H154

外題「六々画像集」、内題「俳諧歌三十六歌仙画像集」。「七十一の愚翁秋長堂物梁」自序、四方滝水跋。彩色刷り絵入り(竹内眉山画)。

催主・蔵板は、石原亭・嵩山房・養老人・大船亭。

狂歌古今畸人画像集(扉) 〔天保頃〕 刊 苴菰園早業撰 半紙本 一冊 911.19 Ro4

外題「狂歌古今畸人伝画像集初」、内題「狂歌古今畸人画像集」。松園序。薄墨刷り口絵一勇斎国芳画(ただし十丁目までで以下の口絵落了丁)。会主・柳鄴園夢業及び紅葉園照業。

〔同〕 〔同頃〕 刊 同撰 半紙本 一冊 911.19 Ry431

前掲本の序文と口絵のみの書。口絵は丁付二十四表までであるが、すべて薄墨なし。

秋葉山奉燈狂歌合(内) 〔天保頃〕 刊 六朶園二葉・文字楼元成等九人撰 半紙本 一冊 911.19 A34

外題「錦葉集」。内題下には「卷上」とあり。彩色刷り口絵其一・梅溪画。

俳諧歌白虎集(外)一・三・四 〔天保頃〕 刊 桂音高撰 半紙本 三卷三冊 911.19 H1512 1・3・4

各巻頭数丁は、彩色刷りで色紙・短冊を模し、狂歌を付す。

狂言哥仙画像集(扉) 〔天保頃〕 刊 神歌堂・蝙蝠軒撰 半紙本 三卷合一冊 911.19 Ry32

内題「狂言歌仙集」。各巻口絵岳亭画。

若江筆勢一字書(外) 弘化二年 写(若江・蜀山人自筆) 三都独翁蜀山人編 半紙本 一冊 911.19 J16

半丁ごとに若江の一字書を添付し、上部余白にその一字を用いた狂歌一首を記す。自序。表紙に「弘化式乙巳年三月」と墨書。

狂歌作者評判記吉書始(内) 弘化三年序 刊 至清堂捨魚等三人撰 横本 二卷一冊 911.19 Ky430

外題・序題「狂歌作者評判記吉書始」。撰者は右一人以外に燕栗園千寿・花廼屋蛙麿。「弘化三年夏一文舎微笑」序、板元三玉堂序、「弘

化三年年 江戸四世八文舎自笑」開口。絵入り。

千とせの門坤(外・内) 弘化四年 刊 蜀山人詠 中本 一冊 浜・911.19 O81-2 2B

刊記「弘化四丁未年十一月／書林／京都(住所略)樹屋勘兵衛／江戸(住所略)岡田屋嘉七／大坂(住所略)柏原屋義兵衛」。

同(外・内) 刊 同詠 中本 二卷二冊 911.19 O81-2 1~2

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

後印本。「丙午の仲冬 なに波 あし間蟹彦」序。刊記は諸国と三都の書林計五十人を列記する（最後は江戸・椀屋伊三郎）。

歌道手引種（外・見） 〔弘化四年〕 刊 浅草庵春村著

半紙本 三卷三冊 911.15 Kat4 1～3

浅草庵自序。刊記には京の出雲寺文次郎・大坂の河内屋喜兵衛・江戸は山崎屋清七まで八軒、合計十人を掲げるが、見返しには「江都 向陽楼藏」とあり。

天明風狂歌月次（外） 嘉永二―四年 刊 昇月堂老人撰

半紙本 合一冊 浜・911.19 Ts36

月次の三年間十七ヶ月分の合綴本。外題「天明狂歌桂月次」とも。彩色刷り絵入り（緑斎・一眼斎・重磨画）。嘉永四年二月分に刊記「出版所 浅草梅園院地内 葛屋重三郎」。

定めぬそら（外） 嘉永四年 刊 梅屋等四人撰

半紙本 一冊 911.19 Sa13

見返し題「一農屋翁七回忌追福興詞合」。彩色刷り口絵彩露画。奥「嘉永辛亥夏」。見返しに「会主／撰播（本町連の目印あり）連」。月次古今職人尺初会（内） 〔嘉永五年〕 刊 浅草庵広道撰

半紙本 一冊 911.19 Ts63

外題「古今職人尺 上」、見返し題角書「子秋／月次」。燕栗園千寿序。彩色刷り口絵（人物画）武陵・芳玉女画。会礎・浅内絵連、催主・旭園輝雄。

誹諧歌一人一首（外） 安政二年 刊 松園等六人撰

半紙本 一冊 911.19 H153

前半は薄墨刷り肖像集（一梅斎芳晴画）。「安政二年二月 燕栗園千寿」序。揮毫・瑞園、彫工・鈴木花井、会主・燕門絵連及び柏木絵連。文会堂藏板。刊記「安政二年乙卯正月刻成／製本所 文会堂」。

都賀のやま万津（外） 安政三年 刊 通用亭徳成等三人撰

半紙本 一冊 911.19 Ts36

徳成八十八の賀集。撰者は右一人以外に通環亭・浅桑庵。「安政乙卯冬月 大橋玉撰并書」序、墨水芳蘭序、梅屋鶴寿跋。彩色刷り口絵山形素真画。清香及び七十五翁山口安良の祝詠の後に、徳成宛酔竹庵橘洲書簡を模刻する。刊記「安政三丙辰年／三月初成／知事／通見舎花成／通天国橋住／通児楼論」。

狂歌倭人物（扉） 〔安政四年〕 刊 天明老人尺語楼撰

半紙本 二卷二冊 911.19 Ky417 1～2

二編から四編及びその他の編から、後人によって絵入りの丁のみを抜萃して二冊としたもの。書外題「広重人物画本」。彩色刷り

(立斎広重画)。

狂歌奥の海上(外) [安政四年] 刊 千柳亭綾彦撰 半紙本 一冊 911.19 Ky461 1

前半は彩色刷りで色紙・短冊を模し、狂歌を付す。本文前に、八十一歳の時の三陀羅法師の詠を模刻。

俳諧歌詞玉集(扉) [安政頃] 刊 千柳亭綾彦等九人撰 半紙本 一冊 911.19 H1511

外題「詞玉集」。彩色刷り口絵広重画。

歌仙肖像集(外・内) [安政頃] 刊 面堂大人等五人撰 半紙本 一冊 911.19 Ka74

口絵あり。本文前五丁半は人物画集。

狂歌四季遊初篇 秋之部(外・扉) [安政頃] 刊 相廻門・五葉亭撰 半紙本 一冊 911.19 Ky433

彩色刷り口絵一勇斎国芳画。

富士山百景狂哥集(外) 万延元年序 刊 真入亭富士江撰 中本 一冊 911.19 Sh64

全丁富士山略画入り。「万延元年庚申四月 真入亭富士江」自序。刊記「東都本問屋 馬喰町四丁目 吉田屋文三郎板」。菅竹浦旧蔵。

狂歌松林集三輯(内) [万延元年] 刊 月の門・櫛の門撰 半紙本 一冊 911.19 Ky422 3

外題「松林集 三巻」。内題下には「判者披露歌合」とあり。彩色刷り口絵あり。

白露貫珠(内) 文久二年 刊 千柳亭綾彦撰 半紙本 一冊 911.19 H19

千柳亭七十の賀集。内題「錦織綾彦七十賀会」。「文久壬戌之春旦正月下流 六十九翁詩山畑了簡」序、錦織綾彦自序。巻頭に色紙を模した清岡正三位式部権大輔長熙卿の賛、及び扇の図と読人知らずの賛(ともに彩色刷り)を付す。奥「文久二壬戌年九月廿五日披露」。

三都集(扉・尾) 文久二年 刊 大阪雪の門春見等三人撰 半紙本 一冊 911.19 Sa67

撰者は右一人の外に江戸春の門都竜・京樸の門花兄。「文久二年十月 みちのく人千柳亭のあるし錦織綾彦」序。彩色刷り口絵二世

狂歌・狂文・狂歌師関係和本書目

一立齋広重画。江川錦二の彫。刊記「文久二歳戊申冬彫成 三都連蔵梓」。

一字題詠集(外・内) 元治元年 刊 春友亭梅秀等五人撰

半紙本 四卷三冊 911.19 113 1~3

「元治元甲子年二月 春友亭梅秀」自序。口絵二世広重・南隣画。刊記卷一「元治元五月彫成 春友亭蔵梓」・卷二「元治元甲子年五月上才 春友亭蔵」・卷四「元治元甲子年八月彫」。

当座館のえり葉(内) 慶応二年 刊 古調園撰

半紙本 一冊 911.19 To97

外題「狂歌たての撰葉」。「すみれの庵老人世平」序。彩色刷り口絵梅坡画。入集者姓名録を付す。刊記「慶応二丙寅卯月／上毛高崎水魚巖連」。

梅花帖(外) 写(各詠者自筆) 狩野快庵編

升型本 一冊 911.19 B14

狂歌を中心にした、発句や詩の詠者真筆集。狂歌師は金鶏圃・山陽堂圃・花江戸住・智恵内子・金崎・四方真顔・浅草庵市人[㊦]・千秋庵・東海道千文圃・尚左堂俊満・萩の屋裏住翁・花の屋道頼等。狩野快庵旧蔵。

手からの岡持狂文(扉) 写(左文筆) 野崎左文編

大本 一冊 浜・917 H91

外題「岡持狂文集」、尾題「手柄岡持文集」。野崎左文・二代目市川左団次旧蔵。

六樹園序文集(外・内) 写(左文筆) 野崎左文編

大本 一冊 浜・917 I76-2

五十の序文を収む。左文の朱筆奥書「編者云、五老翁の序文これにてつきたるにはあらず、茲に洩れたるはべちに拾遺として」冊にもすべくになん圃[㊦]。野崎左文・二代目市川左団次旧蔵。

東分類墓所一覽狂歌師(内) 写 四世慈馬屋額輔遺稿・赤松常信編

大本 一冊 浜・911.19 E51

浅草から本郷までの十一区に分け、百三十四人の菩提寺・姓名・没年月日・法名を記す。

大田南畝自筆詩幅 「天明七年詠」

一軸 浜・728.8 O81-2

「涼室新徴侍從賢」云々、末に「杏園覃圃」。

大田南畝自筆詩幅 「文化二年詠」

一軸 浜・728.8 O81

「人間清福集家門」云々、末に「南畝覃圃」。

大田南畝自筆詩幅

〔文政三年詠〕

一軸 浜・728.8 081-3

「明和安永至天明」云々、末に「杳園集刻成 大田覃圃」。

大田南畝印譜幅

〔文政六年成〕

一軸 浜・728.7 081

三十顆押捺。南畝自筆で「吾家所藏印譜」云々、末に「杳園主人／七十五歳／書」。

大田南畝自筆狂歌幅

一軸 浜・728.8 081-7

一首。「ことぶきは／七百歳と」云々。

山道高彦関係書状

〔天明三十七年〕

山手白人・朱楽菅江・四方赤良各自筆

一軸 浜・911.19 Y312

高彦に宛た紙片五枚張り交ぜ。一・二枚目は一続きの内容で、六月十四日付高彦宛白人書簡。三枚目は池の端に係わる菅江狂歌二首。四枚目は「山道」を詠み込んだ赤良の「返し」一首。五枚目も同上の菅江の「御返し」一首。

鉢叩き之図

文化四年

円乗画・手柄岡持自筆賛

一軸 浜・721.4 T428

「円乗画圃」(彩色)、「文化よつのとしひのとのうのさつきはつかあまり五日／手からのをか持(花押)」賛。

大田南畝詠文

〔明和・安永頃?〕

大田南畝自筆

一枚 浜・919.5 081-9

帙書名「穂田六詠記」。関口叔成宛漢詩文。

大田南畝自筆詩歌二篇

〔文政元年詠〕

一枚 浜・728.8 081-6

詩一篇と狂歌一首。「有花満枝」云々、末に圃あり。「いたつらにすくる月日も」云々、末に「七十翁蜀山人」。

大田南畝自筆短冊

〔文化九年〕

一枚 浜・728.8 081-4

「こたひ／任子補蔭の／仰をかうふりて」の詞書で、「うみの子のいやつき／くに」云々。

大田南畝自筆短冊

一枚 浜・728.8 081-5

「興つきて帰るたはけは」云々。

狂歌二首

紀輕人・蜀山各詠各自筆

一枚 浜・728.8 K145

紀輕人の詠は、徳利と盃の図に「月はさす花はいたゞく酒宴を」云々。蜀山の詠は「としの／はしめ」の詞書で、「雑煮屠蘇牛房数の子」云々。

大田南畝書簡

〔享和元年〕

一通 浜・915.5 O81-5

孟春念七付山内穆亭宛。

大田南畝書簡

〔文化四年〕

一通 浜・915.5 O81-2

弥生十一日（端書には「廿一」とあり）付竹垣柳塘宛。

大田南畝書簡

〔文化九年〕

一通 915.5 O81

八月十三日付竹垣柳塘宛。

大田南畝書簡

〔文化後期〕

一通 915.5 O81-3

九月十二日付竹垣庄蔵宛。

大田南畝書簡

〔文政四年〕

一通 浜・915.5 O81-6

山内尚介宛（七月中句か）。

大田南畝書簡

〔文政五年〕

一通 浜・915.5 O81-7

卯月十一日付横田如圭宛。

鹿都部真顔書簡

〔文化後期〕

一通 浜・915.5 Sh33

八月廿七日付貫四楼宛。

【追加】

圃老巷説菟道園（序・内）

寛政四年序

刊

桑楊庵光著

半紙本

五卷五冊

913.56 T574 1~5

読本。書外題「圃老巷説菟道園」。「寛政壬子初春 桑楊庵主」自序。絵入り。